

C II. 農道

1. 農道本体

(1) 補修

1) 農道路肩、農道法面の補修

農道路肩、農道法面に侵食や土砂の崩壊などが生じている場合、当該箇所状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。

【活動のねらい】

農道路肩、農道法面に侵食や崩壊などがみられた場合、また、ブロック積みや石積み等に隙間やひび割れ、欠損などがみられた場合、当該箇所を補修することによって、農道を利用する地域住民の安全確保を図ります。

【活動の内容】

1-1) 計画

農道路肩、農道法面の侵食や崩壊の有無などを目視にて点検します。また、農道沿いのブロック積みや石積みなどもひび割れや欠損の有無などについて目視にて点検します。点検結果に応じて対策方法を検討します。

農道路肩、農道法面に侵食や土砂の崩壊などがみられた場合、土を補充して締め固めた後に植生保護を行うなどの適切な対策を行います。

ブロック積みや石積みなどに隙間やひび割れが発生している場合、セメントミルクやモルタルなどを用いて隙間を充填することが考えられます。また、大きなひび割れや欠損、はらみ等がみられた場合は、当該部分を一度撤去して再度、積み直すことなどが考えられます。

いずれも、施設管理者や関係機関等と十分に相談し対策方法を検討することが大切です。



道路法面の崩壊



ブロック積みの隙間

1-2) 実施

①農道路肩、農道法面

侵食がみられる場合は、侵食部に路肩や法面と同じ種類の土を用いて埋め戻しを行います。法面等の表面は、スコップの裏面や土羽叩きで良く叩き、しっかり締め固めます。少し大きな侵食がある場合は、土のうを設置することも考えられます。植物の種子が含まれ

る植生土のうを使用した場合、植生によって補修箇所が被覆され、水による土の侵食を早期に減らすことができます。

大きな侵食や崩壊がみられる場合は、土を補充して締め固めながら法面を作った後に植生、コンクリート、張ブロックなどで表面保護する等の方法が考えられます。作業前に施設管理者や関係機関と十分相談するとともに、作業に当たっては専門家の協力を得ることも必要です。

また、これらの侵食や崩壊は雨水が集まりやすいことも原因の一つとして考えられます。これに対して、法肩にマウンドを設置して、雨水を法面に流れないようにするとともに、所定の水路や集水枡まで導水したり、法面に有孔管を設置して法面の中の水を外に抜いたりといった方法も考えられます。

②ブロック積み、石積み

隙間にモルタルを塗り込む場合は、ワイヤーブラシなどで欠損部表面をきれいに清掃し、接着剤（プライマー）を十分に塗布した後に塗り込みます。隙間部分が大きい場合、一度にモルタルを塗り込むと、固まった後にはく離することがあるので、2～3回程に分けて少しずつ穴を埋めるようにして補修します。



ブロック積みの施工

既設のブロック積み、石積みを撤去する場合は、コンクリートブレイカー等の機械を使用しながら当該部分を取り除きます。既設と新設の接合部となる箇所は、脆弱部が残らないようにハンマーなどでそれらをきれいに除去してから清掃します。ブロックや石を積むに当たっては、高さが一定になること、新設のブロック面などが既設のブロック面の勾配と同一になること、面がはみ出さないこと、などに注意しながら一段ずつ積み上げます。一段積み上げる毎に、背面に碎石やコンクリートを投入して締め固めるとともに、ブロックや石積みの隙間にもコンクリートを流し込みます。コンクリートの締め固めは、ブロックの隙間などからモルタルがにじみでる程度まで行いますが、棒型振動機等を使用すると効率よく締め固めることができます。また、背面の水を外に抜くために水抜きパイプを設置します。ブロックや石積みなどを最上段まで積んだ後、ブロックや石積みなどの背面に型枠を設置し、コンクリートを流し込みます。コンクリート表面はコテなどを使用して均一に仕上げます。

1-3) 確認

①農道路肩、農道法面

コンクリートで表面保護をした場合にひび割れ等が生じていないか、降雨時に法面に水が集まって流れていないか、降雨後に侵食や崩壊などが発生していないかを確認します。また、植生保護をしている場合は、その生育状況も観察し、必要に応じて種子の散布や植

栽などの対策を行います。

②ブロック積み、石積み

新旧ブロック・石積み部の境目に亀裂などがいないか、新設部に隙間やひび割れ、はらみ等が発生していないか確認する必要があります。

【配慮事項】

- ・補修の規模や対策工法により、大型機械が必要となり作業自体に危険を伴う場合や、詳細な測量による管理が必要な場合には、事前に施設管理者や関係機関等に相談し、専門家に協力を依頼することも考えられます。
- ・作業に当たって道路を占有するときには、事前に関係機関（所轄警察署等）へ相談し、必要な手続きなどを行います。

【農道路肩・法面の補修】

～活動例～

○農道法面の補修

・対象施設

農道

・活動内容

かんがい期前の点検時に、農道の2箇所では法面の侵食等が確認された。A地点では谷側の盛土法面に侵食が確認された。水土里ネット関係者と相談し、侵食部分に盛土と類似の土を充填し締め固めを行った。B地点では山側の切土法面が幅10m程の区間で崩壊していた。B地点は地滑り防止区域内に位置することから町役場に連絡した。

・活動時期

4月

・参加者

水土里ネットの指導のもと、活動組織の農業者8名